

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677500110
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム あいら
訪問調査日	2008/5/23
評価確定日	2008/8/11
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4677500110		
法人名	社会福祉法人 恵仁会		
事業所名	グループホーム あいら		
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町上名5324-2 (電話) 0994-58-5539		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年5月23日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(平成20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人 非常勤3人 常勤換算10.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18900(日 630) 円	その他の経費(月額)	日 170 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり800円		

(4) 利用者の概要(4月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青仁会池田病院 誠心会入佐内科 青仁会池田病院歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の山村地域に立地し、近くに初詣などで有名な吾平山陵があり、自然に恵まれた静かな環境に開設されているホームである。管理者、職員は一人ひとりの利用者の心身の状況や要望に傾聴しテーブルや椅子の高さ調節・居住環境の見直しなどに心がけて安全確保や自立への支援に配慮している。また、ホームの隣に職員が居住しており、入居者や家族に安心感を与えている。職員の細かな気づかいと努力は言葉を失った入居者が話せるようになり、また車椅子の人が自力歩行でき、本人たちに明るさと笑顔が戻り、その成果は家族の喜びと職員の自信と励みになっている。世帯数の少ない地域ではあるが、その少ない住民が一つの大きな輪になり、防災訓練や催事に積極的に参加している姿は、まさに地域密着型サービスを実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しについては、グループホームの意義と役割を重視した理念を作成し、さらに地域の人たちとの深い絆を結ぶように支える理念を追加するべく、職員の思いを集約して作り上げ課題の改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義について話し合い、各ユニット毎に自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行うことにより、全職員間の共通認識が高まり、ケアに活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政職員、住民代表など多くの参加を得て、定期的で開催されている。災害時の協力体制にはヘルメットが必要であるとの意見に対して協力者にヘルメットを配布したり、職員と入居者・ホームと地域との関わりを密にする一環として夕食のみを給食委託とするなどは地域交流と情報交換につながり、サービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や家族会・行事参加の際に職員は家族などと話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。また面会ノートに家族の言葉を書きとめて、出された要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の老人クラブ、民生委員の方々との意見交換会やボランティアによる生花教室・音楽療法・子供会(小中学生の子供達)との交流、また地域住民の方々による奉仕作業の際にはホームをお茶の提供場所として利用してもらうなど、交流は盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割を重視した理念を作成し、さらに、地域の人たちと深い絆を結べるように支える理念を、職員の思いを集約して作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員にミーティングや申し送り時に理念を日々のケアの中で活かすように具体的に指示している。職員は理念を共有しながら日々のケアに実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人クラブ、民生委員の方々との意見交換会や、ボランティアによる生花教室・音楽療法・子供会、小・中学校の子供達との交流、また地域住民の方々の奉仕作業の際にはホームをお茶の提供場所として利用してもらうなど、交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義について話し合い、各ユニット毎に自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行うことにより、全職員間の共通認識が高まり、ケアに活かされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員・住民代表など多くの参加を得て定期的開催されている。災害時の協力体制にはヘルメットが必要であるとの意見に対して協力者にヘルメットを配布したり、職員と入居者、ホームと地域との関わりを密にする一環として夕食のみを給食委託とするなどは情報交換につながり、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部法人やホームが発行している便りを定期的に配布したり、市の担当者に運営・サービスについて相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会の開催時、また遠方の家族には電話・文書・インターネットなどで日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳の記録により管理し定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の際に職員は家族などと話す機会を作り意見を出しやすい雰囲気作りに心がけている。また面会ノートに家族などの言葉を書きとめ、出された要望はミーティングなどで話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間の職員が全入居者に関わりを持てるような環境作りを工夫しながら、職員と入居者家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、定期的に勉強会をしている。外部研修は段階に応じた研修に参加し、ミーティング時に研修報告をしている。資格取得できるように支援し、多くの職員が資格取得をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホームの会議や研修会に入居者と一緒に参加し、発表会をしたり、またグループホームとの交流や相互訪問など積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人と面談したり、家族などケアマネジャー・主治医などにより生活状態・思いや不安を十分に聞いている。なじめるように十分な説明をし、信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に寄り添い一人ひとりの得意とする(裁縫・生け花・俳句・ぬり絵・農作業)事をしてもらう中で、利用者の過去の生活の新しい発見や、作業時の行動と表情に職員は元気をもらいながら日々をともしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の表現は口頭で表現したり、言動や表情で表現している。選択の場面を提供したり見守りに心がけ、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し、家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見をだしてもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い定期的に(3ヵ月毎)評価をして見直しをしている。状態変化に応じて話し合いをし必要に応じて都度の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制加算をとっている。本人、家族などの状況に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族、医師、看護師を交えて話し合い、職員も共有している。またホームが支援できる内容を統一した指針も定められている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳への配慮についての関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時、個人情報保護に関する誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や散歩、レクリエーションなどその人の心身の状態に留意しながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜の収穫や下ごしらえ、盛り付け、片付けなど、できる事をしてもらいながら職員もいっしょにその人のペースに合わせてサポートしつつ食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて支援している。利用者同士入浴したり、ためらう利用者に対しては言葉かけの工夫や清拭・足浴などで対応している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、俳句、はり絵、ぬり絵、犬の世話、裁縫、漬物作りなど利用者の特技を発揮できるように支援している。また作品などの発表会出品や自宅訪問、墓参り、カラオケへ出かけるなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物、散歩、ドライブに行ったり地域行事に参加している。また他施設や外食、花見、温泉などに出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守り、外出の際にはさりげなく声かけし、一緒について行くなど安全に自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと昼間・夜間を想定した避難訓練を行っている。また地域の消防分団、住民の参加を得て訓練をしており協力関係ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせてミキサー食やトロミ食を提供している。栄養バランスは協力病院の栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は木のぬくもりが満ちており清潔で換気や臭いに配慮が行き届いている。ソファや畳スペースが要所にあり、ホールには季節の花が飾られて家庭的で生活感あふれる共用空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、カセットデッキ、椅子、テーブル、家族写真、自作の書などそれぞれなじみの物が持ち込まれている。また家族と一緒に模様替えを行い、居心地良く過ごせる居室作りができています。		